



自らの出自について話すことで子どもたちに感じとってほしいことはありますか？

いじめの問題など、いろいろな悲しいニュースを耳にしますが、多分些細なことでそういうのって始まる気がします。僕もいじめられる側で経験してきたのでよく分かるんですが、最初は大きなことなくても、それがだんだんエスカレートして行って悲劇につながりかねない。これは、教育現場で問題視されていますが、実は社会の中でも大いに現れることだと思っています。理由はいろいろですが、みんなと何が違う、そういう人に対してどう接していくべきか。一方で、そういう人は、この社会の中でどう振る舞っていくべきか。それぞれが考えていくべきだという気がします。狛江市の小学校を訪れた時にも、あっ、僕と一緒に来たと思う子どもたちもいました。その子たちには、他と違うと言われても、それにめげずに自分らしく自分ができることに向き合っていくってほしいです。そして、クラスメイトの子たちには、そういう仲間だからこそ聞ける話だとか、面白いことがあったりもするし、みんなと違うからといって差別していくのは良い結果につながらないよと伝えたい。そういうことを何となくでもいいので感じてもらえたらと思っています。

国内外で活躍する金子さんはどんな子どもだったの？

子どもの頃のことを聞きました。



勉強はできましたか？苦手な科目はありましたか？

これは自慢話でもなんでもなく、勉強に関しては、常にトップを走ってないと気が済まない子どもだったんです(笑)。良くいえば負けず嫌い、悪くい

えば頑固だったと思うんです。みんなと違うっていうコンプレックスがあったので、それ以外のところではけなされないように頑張っていこうみたいな感じてました。自分なりにできる限りの努力をしてベストを尽くそうって、自分で自分にもものすごいプレッシャーをかけてやりましたね。今となっては笑い話なんですけど、数学のテストが99点になろうもんなら自分が耐えられないみたいな感じてました(笑)。

一方で不得意なもの、これは体育関係全般ですね。これは常にビリでした。ハンガリーの子どもたちって体格がすごく良いんですよ。同じクラスメイトでも身長が全然違う。そんな子たちと例えばバスケットボールなんてやろうものなら、手も足も出ませんって感じてました。しかも、小学校1年生の時にちょっと足のけがをして、体重がどんどん増えてしまって、4年生の頃には力士を目指すんですかみたいな感じの体形で、スポーツはとてとても苦手でした。



子どもの頃の楽しみなど、どんなことが気分転換になりましたか？

美味しいものを食べること(笑)。あと、プロを目指していたものの、やっぱり音楽が気分転換になりました。音楽を弾ける、奏でられる、ピアノだったり、パーカッションだったり、人前に立って演奏するのが何よりのストレス発散でしたね。

実は小学生の時、すごい山奥の森の中に住んでいたんです。町とかではなく近所に誰も人がいないような所にハンガリーの祖父母と住んでいました。自然の中で過ごす時間がおのずとあり、自然の魅力、美しさ、野生の動物に日々触れられるので、鳥や小動物が自分の友達みたいな毎日を送っていました。それも癒しの一つでしたね。でも一方で、

自然はどれだけ厳しいものなのかを感じました。例えば冬場に大雪が降った時はとても大変でした。命懸けて過さないといけないような体験をすると、自然の力に比べて人間っていかに小さな生き物かと実感するので謙虚になれますよね。生きていることの喜びを感じることができます。音楽っていう好きなことができる喜び、あるいは学校に行っているいろんなことを勉強できる喜びがあるのも、生きてるからなんだと、自然の中だからこそ感じられるものがありましたね。



今の子どもたちと自身が子どもの頃を比べて違いなどを感じますか？

子どもっていつの時代も基本は一緒だなんて思います。一番良いところはいくらかでも可能性がある。これから何をしててもまだ間に合う。できる、やればできる、挑戦していけるって、これは素晴らしい時期ですよ。今からだったらまだ何にでもなれるんだ、どんなことでもできるんだと夢が広がっている。僕はもうそこには戻れないですからね。だから、大人になったときに後悔しないように、何にでも挑戦していくってほしいなと思っています。



Mizuho Kouchi

子どもたちへのメッセージ

将来どういうことをやりたいのか、夢を見つけて、目標を定めて歩んでください。どんなに大きな目標でも頑張っって向かっていってください。

挑戦してってください。

夢は大きくもって、目標はもっと大きくもって、

そこに向かってあきらめずに挑戦し続ければ、夢は叶いますから。

目標は達成できますから。

そこに向かって楽しい人生を送ってってください。